

サイ・テラ こらむ 知と技の発信

【108】

埼玉大学・理工学研究の現場

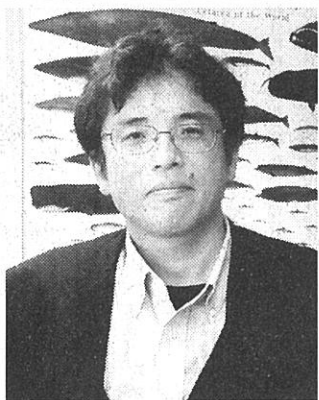
■川の虫の知らせ

「虫の知らせ」と言えば、心の不安が的中することなど、決して良いことの例えには用いられないが、川の虫の知らせは河川の健全性のバロメーターであり、私たち人類にも大変重要な役割を果たす。

鉄格子内の石をひっくり返して

カゲロウ目(E)、カワゲラ目(P)、トビケラ目(T)、およびその他の目において何種類の虫がいたかを、河床に置いた狭い

カゲロウ目(E)、カワゲラ目(P)、トビケラ目(T)、およびその他の目において何種類の虫がいたかを、河床に置いた狭い



藤野 毅氏(ふじの・たけし)67年生まれ。埼玉大学大学院修了。博士(学術)。04年から現職。専門は水環境学と都市熱環境学。近年は社会学的調査研究にも挑む。

埼玉経済

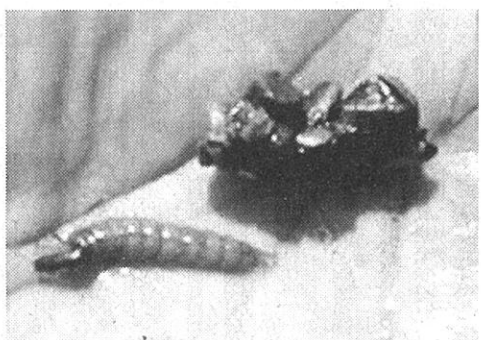
川虫を通した環境保全

藤野 毅 大学院理工学研究科 准教授

染された河川では、世代交代を繰り返しても、今でもトビケラの体内から高いレベルの放射性セシウムが検出される。セシウムは水中でイオンになるが、より細かな粒子状懸濁物(細粒の有機物)に付着し、それが餌として取り込まれる。

■ミャンマーの裏側

今年度から「イラワジ川源流部の環境保全と技術供与」という主旨でミャンマーの環境調査が実現した。当該地域は金の採



ミャンマー産のヒゲナガカワトビケラ科と砂で作った巣(右)

掘が盛んで、精製のために高濃度の水銀の流出が懸念される。残念ながら政情不安のため、西部アラカン山脈の少数民族が支配するチン州で河川水質と底生生物種を調べることになった。しかし、ここは生物多様性が高く、薬用資源の宝庫としても知られる。

美しい景観の中、家畜と共に暮らす彼らの生活は前世紀まで自給自足で賄われ、狩と焼畑農業が伝統として残る。そんな地域も貨幣経済が導入されて少しずつ豊かになるも、コンニャクをはじめ、より高い生産効率を求められて肥料が大量に散布され、焼き畑の周期も大幅に短くなった。

衛星写真とGIS(地理情報システム)で解析すると、多種多様な虫が生息する流域面積の3割近くが焼畑で占められる。雨季には高い窒素を含んだ大量の土砂が河川に流出する。

この3月に、こうした現状を小型発電機で電気を起(こ)してス。一方、チン州の豊かな自然と何世紀の間、その一部として暮らす彼らの生活様式から多く

企業、団体商店街などの話題や情報をお寄せ下さい
TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040